

令和7年2月24日

令和6年度 練馬区立石神井西中学校 学校評価報告書

練馬区立石神井西中学校長

井上 貴雅

1 自己評価結果

(1) 概要

本校では、今年度の教育活動や目指す学校・生徒・保護者の姿、今年度の学校経営重点目標に沿って、19項目を設定し、【ア：とてもそう思う、イ：どちらかといえばそう思う、ウ：どちらかといえばそう思わない、エ：そう思わない】の4段階で11月～1月に評価を行った。ア・イの回答を肯定的評価と捉え、肯定的評価の割合に注目し、

- ・80%以上の項目を A（目標が充分達成できている）
- ・80%未満55%以上の項目を B（概ね達成できている）
- ・55%未満40%以上の項目を C（達成がやや不十分である）
- ・40%未満の項目を D（達成が不十分である）として表記している。

評価結果は各分掌・学年部会で分析を行い、評価A・Bの項目については次年度も継続した取り組みを進め、評価C・Dの項目については課題と捉え、具体的な改善策を策定して目標達成に向けて取り組んでいくこととした。また、自由記述欄の結果についてA：「早急に対応すべきもの」B：「今年度中に対応すべきもの」C：「次年度に向けた意見として参考にするもの」に分け、各分掌主任・各学年主任・個人に指示をし、対応を行っている。特に、A：「早急に対応すべきもの」については、すでに対応が済みであり、特に保護者対応を適切にできた。

成果としては、全体的に肯定的な評価となったことが挙げられる。特に、「道徳の授業は充実しており、様々な立場で考えることができる。」「生徒会活動・学校行事などを通して、集団としての自主性や責任感が伸びている。」「福祉体験を通じて、思いやりの心が育っている。」「基本的な生活習慣を身に付け、規律ある集団行動をとることができている。」「基礎的な体力や運動に親しむ態度が向上している。」「避難訓練や安全指導を通じて、危険を回避する意識が向上している。」「英語検定や漢字検定を受験したり地域を学んだりする機会は十分にあった。」「生徒の実態に応じた学年・学級経営が進められている。」の8項目は生徒、地域・保護者の85%以上がB評価以上を付け、高い評価となった。道徳の授業や生徒会活動の充実については、特に学校として重点をおいて教育活動を進めており、今後も一層推進していきたい。しかし、教員の資質・能力の向上の設問4項目中3項目で昨年度を下回る結果となった。

課題としては、「確かな学力の定着」の4つの設問項目において、地域・保護者のB以上とする回答が70%～82%となり昨年度を下回った。一方生徒においてはそのうち2つの設問項目でB以上とする回答が9割を超えた。つまり「確かな学力の定着」において、地域・保護者の視点と生徒の視点では少し差があることがわかり、地域・保護者に学校の取り組みが伝わるような工夫をしていく必要がある。例えば学校ホームページやsigfyなどで発信回数を増加させることを今年度よりも工夫する。さらに、「自学自習ノートやタブレット端末を活用して自主的に学習に取り組んでいる。」の項目においては、生徒よりも地域・保護者の方が高い。これは、タブレットは学校に持参しているが、生徒は思ったよりも活用できていないことが伺える。ICTの活用の工夫をしていく。他の項目に比べて回答の割合が低いことを考えると、自学自習ノートの活用事例やタブレット端末を使った授業の充実を今後さらに図っていく必要がある。

昨年度に比べ、保護者の「わからない」という評価が高く、肯定的評価が非常に下がった。生徒の評価は昨年度と変わらないことから、現在の取り組みを継続しつつ、地域・保護者にわかりやすい情報発信の仕方を検討し、「開かれた学校」づくりを進めていきたい。

(2) 根拠となる資料

評価項目		取組指標	取組目標 (教師)	成果目標 (生徒・ 保護者)	評価 結果	肯定的評価 % (上段：生徒) (下段：地域・保護者)	次年度の改善策
豊かな心の醸成	道徳の授業は充実しており、様々な立場で考えることが出来る。	全学級が年間を通じて、石西メソッドとローテーション道徳を取り入れた道徳授業を実施する。	80%	80%	A	97.8% 83.3%	教員が授業で使っているツールを共有し、指導の一層の充実を図る。
	生徒会活動・学校行事などを通して、集団としての自主性や責任感が伸びている。	生徒会を中心として、地域の小学校と共に取り組む事業を開始する。	80%	80%	A	96.0% 88.2%	小中連携や、校外に向けた取組等も取り入れ、石神井西中生ができることを地域とともに考える機会をつくる。
	福祉体験等を通じて、思いやりの心が育っている。	地域の高齢者福祉施設での体験学習や障害理解教育を系統的に実施する。	80%	80%	A	93.9% 89.2%	福祉体験的な機会を再構築したい。
	基本的な生活習慣を身に付け、規律ある集団行動をとることができている。	学校行事等で生徒自身が判断して行動する場面を設定する。	80%	80%	A	94.7% 93.9%	現在の取組を継続する。
確かな学力の定着	1単位時間の学習事項が分かり、主体的に学習に取り組むことができる。	1単位時間ごとのねらいを生徒に提示する。	80%	80%	A	94.0% 81.6%	学年通信や公開日などでどのような授業を行っているのか発信する。また、HPやsigfyも活用する。
	学習内容に対して、必要に応じて指導や助言を得ることができる。	学力向上支援講師やタブレット端末等を活用し、個に応じた指導の徹底を図る。	80%	80%	A	93.3% 77.1%	指導や助言のさらなる改善を進める。また、保護者にも取組の内容の発信を進める。
	自学自習ノートやタブレット端末を活用して自主的に学習に取り組んでいる。	自学自習ノートやタブレット端末の活用を進め、各学年の実態に応じた家庭学習例を提示する。	80%	80%	A	85.4% 75.8%	学習活動例を提示する。
	必要に応じて、補充指導を受けることが出来る。	補充指導等の場を設定するとともに、取組を周知する。	80%	80%	A	85.4% 68.9%	取組内容や補充学習の必要な範囲を提示する。

健康・体力の向上	健康の保持・増進や感染症対策を行っている。	望ましい食習慣の形成や感染症予防を含めた健康増進や保持に対する意識啓発を行う。	80%	80%	A	92.3% 87.3%	共用部分の消毒など、感染症対策を今後も継続していく。外部機関の活用も進める。
	基礎的な体力や運動に親しむ態度が向上している。	生徒個々が目標をもって、基礎的な体力や運動能力を向上できるよう指導する。	80%	80%	A	96.3% 91.1%	現状を継続し、更なる意欲向上を図る。
	避難訓練や安全指導を通じて、危険を回避する意識が向上している。	安全教育・防災教育を通じて、さまざまな場面を想定しながら、自ら危険を回避する能力の育成を図る。	80%	80%	A	96.6% 92.4%	地震以外の緊急時も訓練対象とする。また、SNSトラブルもセーフティ教室や情報モラル教室で取り上げる。
すべての生徒に向けた支援	いじめ等の対応について、小学校との連携は十分に行われていると感じることができる。	石神井西小学校、立野小学校、関町小学校、外部機関と連携し、いじめの未然防止や解消、不登校児童・生徒の出現防止や一人一人の学校復帰について検討する。	80%	80%	A	90.3% 74.0%	小中学校間の連携を密に行い、活動を発信していく。
	必要に応じて、教育的な相談をし、支援を受けることができる。	教育相談等の取組について周知するとともに、特別な教育支援を要する生徒に対し、支援方法を整理し、学校生活支援員や臨時支援員等を活用しながら、学習・生活面での生徒支援にあたる。	80%	80%	A	92.9% 77.7%	SCや心のふれあい相談員の活動、相談室の様子を伝えるため、紙面でのお便りの発行を行う。
	地域ボランティア活動を行う機会が十分にあった。	青少年赤十字（JRC）委員会を核にした国際理解とボランティアに関する学習・活動を推進し、地域ボランティア活動を継続する。	80%	80%	A	82.9% 78.3%	地域でのボランティア活動を進める。

	英語検定や漢字検定を受検したり地域を学んだりする機会は十分にあった。	学校支援コーディネーターを活用し、英語検定試験・漢字検定試験、地域未来塾を継続すると共に、関町図書館を始めとした教育施設の活用など、生涯学習の観点に立って、地域に根差した教育活動を進める。	80%	80%	A	92.2% 90.8%	「練馬調べ」を継続し、地域を学ぶ機会を確保する。
教員 の 資 質 ・ 能 力 の 向 上	生徒の実態に応じた学年・学級経営が進められている。	全教員が校務改善に向けて意見提出するとともに、生徒の実態を踏まえた学年・学級経営案を作成・実施する。	80%	80%	A	95.8% 86.3%	生徒の実態に応じて、全体の指導方針に基づいて経営を進めていく。
	学習内容は分かりやすく、工夫して指導されている。	校内OJT体制を整備するとともに、全教員が年2回の生徒による授業評価、年1回以上の研究授業を行う。	80%	80%	A	91.9% 72.6%	授業改善や指導方法の工夫について、引き続き研究を進める。外部にも取組の発信を行う。
	体罰や個人情報の流出等を含めた事故防止は適切に行われている。	服務事故防止研修を年間5回以上実施する。	80%	80%	A	94.4% 79.1%	研修を継続し、教職員一同の意識向上に努める。
	教員間の情報の共有は適切に行われている。	毎朝の打ち合わせの時間での報告・連絡・相談を徹底し、風通しの良い職場環境を構築する。	80%	80%	A	93.2% 79.4%	PC上の校内掲示板を活用しながら、今後も細やかな情報共有を行う。

2 自由記述

(1) 地域・保護者

①成果

- ・担任の先生・部活動の顧問の先生をととても信頼して安心して通うことができています。1年前の苦しみが嘘のようです。西中の先生方の日々の細やかなご指導のおかげだと思っております。本当にありがとうございます
- ・石神井西中の卒業生です。正直なところ、在学中には分からない部分も多かったのですが（不満があったわけではなく、実感がなかったという意味です）、卒業してみるといかに先生方や関係者の皆さまに、大切に真っ直ぐに育てて頂いたかがわかりました。
- ・面談の際に「不安や嫌なことがあったらすぐに相談してください」とのお言葉をいただき、本人も安心して通学することが出来ていると感じます。
- ・いつも本当にありがとうございます！先生方の熱意が子どもを通して伝わります。
- ・教職員の皆様のおかげで、娘が日々様々な経験をさせていただき、充実した中学校生活を送っております。ありがとうございます。
- ・いつもご指導ありがとうございます。職員の皆様、またお友達にも恵まれ、毎日充実した学校生活を送っています。一年生から比べると人間的にも成長を感じます。
- ・同級生や先生に恵まれて、勉強スポーツ行事などなんでも全力で楽しく取り組める環境で多感な中学生の時期を過ごせたことにととても感謝しています。また、自分と違う人を攻撃するのではなく、みんな違ってみんないいと上手に付き合い、よい距離感で集団生活を送る力がついている様子が見え、先生方のご指導のおかげと感謝しています。他

②課題

- ・先生が親切でないと聞きました。
- ・当然のことを言うだけなのにそのような心配をするということは、先生との信頼関係ができていないのではと感じました。また、採点間違いは先生側のミスであるのに申告期限を設けるのはいかがなものでしょうか。
- ・部の欠席、遅刻などの連絡がフォームのみの受付になっていますが、毎週決まった曜日に予定がある場合、毎回連絡するのが手間になります。毎週の予定があることを伝えたいので、フォームに自由記述欄を作ってもらいたいです。
- ・何かのテストで性別を記入する欄があったと聞きました。体と心の性別が一致しない人間もいることはかなり広く知られるようになっていますが、子どもに対しても性別を書かせることを強要するべきではないと考えます。
- ・タブレット学習を推進する事は、子供達の思考力、学力を低下させる。日本の教育について大変危惧しています。
- ・取組をアピールしているのは分かりますが、同時に足りなかった点も同時に載せていただけると比較になります。
- ・漢検や英検を勧めているなら、学校で其々にいつ何級を目指したら良いかを提示してあげて欲しい。そのための勉強プランも示して欲しい
- ・担当教諭によって、授業内容にかなり差があるように思われる。
- ・このような評価制度はなくした方が良いと思います。それが本当に生徒の利益に繋がるのか疑問に思う項目もありますし、選択の評価項目で選ばせません。自分の子どもに関しては、その都度対応していただいております、先生方には感謝しております。

- ・まず内申が取れないこと。子供がテストなどで次はもっとさらに頑張っただけで自分なりに成果を出しても目に見えて評価がされないの、どうせやってもやらなくても同じ評価ならやんなくても同じだと…ガッカリして子供のやる気が毎回それがやる気をなくしていく。やはり頑張ったら頑張ったなりに目に見えて評価をされないと次は更にと向上心が無くなります。内申の為に行きたい高校を諦める事だけではなくあります様にご指導願います。
 - ・授業の内容、テスト、評価などが授業と連動しているのか、不明瞭に思える科目もありました。また、期末試験は平均 60 点を目安にした問題と入学当初に聞いた気がするのですが明らかに下回ることが多く、本人の努力不足といえばそれまでですが、勉強しても点数が取れない苦手意識がついたのが見て取れるのは残念です。
 - ・中間テストを取り入れて欲しいです。高校では当たり前であり、5 教科の範囲も限られており勉強しやすいため。他
- 【対応】 A：「早急に対応すべきもの」 B：「今年度中に対応すべきもの」 C：「次年度に向けた意見として参考にするもの」に分類し対応。

3 評価結果の公表等

- ・評価結果については、3月中旬に保護者会を開き、学校全体評価結果と考察を校長から口頭で説明する。
- ・ホームページで、学校評価結果を公開する。
- ・地域関係者には、2月の学校評議員会を書面開催とし、事前に送付しておいた結果について意見を返信及びご意見をいただいた。

4 次年度の学校改善へ向けた校（園）長の見解

今年度の重点目標の中で、生徒と地域・保護者からの評価に乖離がみられた項目について、改善策を着実に進めると共に、高齢化などの課題のある地域と協働した教育活動の新たな構築、高い評価を得ている現在の教育活動の定着を図るべく教育課程を編成し、次の点を特に重点として取り組んでいく。

◇学習指導について

◇生活指導について

◇特別な教育支援について

◇校訓の「共生」を具現化するため、特に学校レガシーとして「ボランティアマインド」「障害者・高齢者理解」に力を入れ、特色ある教育活動を実施する。

◇その他の特色ある教育活動